

を得る。

(2) 式から ,

$$\sum_{i=1}^n X_i \hat{u}_i = 0,$$

を得る。

$\hat{Y}_i = \hat{\alpha} + \hat{\beta}X_i$  から ,

$$\sum_{i=1}^n \hat{Y}_i \hat{u}_i = 0,$$

を得る。なぜなら ,

$$\sum_{i=1}^n \hat{Y}_i \hat{u}_i = \sum_{i=1}^n (\hat{\alpha} + \hat{\beta}X_i) \hat{u}_i$$

$$\begin{aligned}
&= \hat{\alpha} \sum_{i=1}^n \hat{u}_i + \hat{\beta} \sum_{i=1}^n X_i \hat{u}_i \\
&= 0
\end{aligned}$$

である。

$i$	$Y_i$	$X_i$	$\hat{Y}_i$	$\hat{u}_i$	$X_i \hat{u}_i$	$\hat{Y}_i \hat{u}_i$
<b>1</b>	<b>6</b>	<b>10</b>	<b>6.8</b>	-0.8	-8.0	-5.44
<b>2</b>	<b>9</b>	<b>12</b>	<b>8.1</b>	0.9	10.8	7.29
<b>3</b>	<b>10</b>	<b>14</b>	<b>9.4</b>	0.6	8.4	5.64
<b>4</b>	<b>10</b>	<b>16</b>	<b>10.7</b>	-0.7	-11.2	-7.49
合計	$\Sigma Y_i$	$\Sigma X_i$	$\Sigma \hat{Y}_i$	$\Sigma \hat{u}_i$	$\Sigma X_i \hat{u}_i$	$\Sigma \hat{Y}_i \hat{u}_i$
	<b>35</b>	<b>52</b>	<b>35.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.00</b>

## 9.4 決定係数 $R^2$ について

次の式

$$(Y_i - \bar{Y}) = (\hat{Y}_i - \bar{Y}) + \hat{u}_i,$$

の両辺を二乗して、総和すると、

$$\begin{aligned} & \sum_{i=1}^n (Y_i - \bar{Y})^2 \\ &= \sum_{i=1}^n ((\hat{Y}_i - \bar{Y}) + \hat{u}_i)^2 \\ &= \sum_{i=1}^n (\hat{Y}_i - \bar{Y})^2 + 2 \sum_{i=1}^n (\hat{Y}_i - \bar{Y})\hat{u}_i + \sum_{i=1}^n \hat{u}_i^2 \end{aligned}$$

$$= \sum_{i=1}^n (\hat{Y}_i - \bar{Y})^2 + \sum_{i=1}^n \hat{u}_i^2$$

となる。まとめると、

$$\sum_{i=1}^n (Y_i - \bar{Y})^2 = \sum_{i=1}^n (\hat{Y}_i - \bar{Y})^2 + \sum_{i=1}^n \hat{u}_i^2$$

を得る。さらに、

$$1 = \frac{\sum_{i=1}^n (\hat{Y}_i - \bar{Y})^2}{\sum_{i=1}^n (Y_i - \bar{Y})^2} + \frac{\sum_{i=1}^n \hat{u}_i^2}{\sum_{i=1}^n (Y_i - \bar{Y})^2}$$

それぞれの項は、

1.  $\sum_{i=1}^n (Y_i - \bar{Y})^2 \implies y$  の全変動

$$2. \sum_{i=1}^n (\hat{Y}_i - \bar{Y})^2 \implies \hat{Y}_i \text{ (回帰直線) で説明される部分}$$

$$3. \sum_{i=1}^n \hat{u}_i^2 \implies \hat{Y}_i \text{ (回帰直線) で説明されない部分}$$

となる。

回帰式の当てはまりの良さを示す指標として、決定係数  $R^2$  を以下の通りに定義する。

$$R^2 = 1 - \frac{\sum_{i=1}^n \hat{u}_i^2}{\sum_{i=1}^n (Y_i - \bar{Y})^2},$$

または、

$$R^2 = \frac{\sum_{i=1}^n (\hat{Y}_i - \bar{Y})^2}{\sum_{i=1}^n (Y_i - \bar{Y})^2}$$

として書き換えられる。

$$\sum_{i=1}^n (Y_i - \bar{Y})^2 = \sum_{i=1}^n (\hat{Y}_i - \bar{Y})^2 + \sum_{i=1}^n \hat{u}_i^2 \text{ から, 明らかに,}$$

$$0 \leq R^2 \leq 1,$$

となる。 $R^2$  が 1 に近づけば回帰式の当てはまりは良いと言える。しかし、 $t$  分布のような数表は存在しない。したがって、「どの値よりも大きくなるべき」というような基準はない。

慣習的には、メドとして 0.9 以上を判断基準にする。

数値例： 決定係数の計算には以下の公式を用いる。

$$R^2 = 1 - \frac{\sum_{i=1}^n \hat{u}_i^2}{\sum_{i=1}^n Y_i^2 - n\bar{Y}^2}$$

計算に必要なものは、 $\hat{u}_i = Y_i - \hat{Y}_i = Y_i - \hat{\alpha} - \hat{\beta}X_i$ 、 $\bar{Y}$ 、 $\sum_{i=1}^n Y_i^2$  である。

$i$	$Y_i$	$X_i$	$\hat{Y}_i$	$\hat{u}_i$	$\hat{u}_i^2$	$Y_i^2$
<b>1</b>	<b>6</b>	<b>10</b>	6.8	-0.8	0.64	36
<b>2</b>	<b>9</b>	<b>12</b>	8.1	0.9	0.81	81
<b>3</b>	<b>10</b>	<b>14</b>	9.4	0.6	0.36	100
<b>4</b>	<b>10</b>	<b>16</b>	10.7	-0.7	0.49	100
合計	$\sum Y_i$	$\sum X_i$	$\sum \hat{Y}_i$	$\sum \hat{u}_i$	$\sum \hat{u}_i^2$	$\sum Y_i^2$
	<b>35</b>	<b>52</b>	<b>35.0</b>	<b>0.0</b>	<b>2.30</b>	<b>317</b>

なので、

$$R^2 = 1 - \frac{2.30}{317 - 4 \times 8.75^2} = 0.786$$

## 9.5 まとめ

$\hat{\alpha}$ ,  $\hat{\beta}$  を求めるための公式は

$$\hat{\beta} = \frac{\sum_{i=1}^n X_i Y_i - n\bar{X}\bar{Y}}{\sum_{i=1}^n X_i^2 - n\bar{X}^2}$$
$$\hat{\alpha} = \bar{Y} - \hat{\beta}\bar{X}$$

なので、必要なものは  $\bar{X}$ ,  $\bar{Y}$ ,  $\sum_{i=1}^n X_i^2$ ,  $\sum_{i=1}^n X_i Y_i$  である。

決定係数の計算には以下の公式を用いる。

$$R^2 = 1 - \frac{\sum_{i=1}^n \hat{u}_i^2}{\sum_{i=1}^n Y_i^2 - n\bar{Y}^2}$$

計算に必要なものは、 $\hat{u}_i = Y_i - \hat{Y}_i = Y_i - \hat{\alpha} - \hat{\beta}X_i$ 、 $\bar{Y}$ 、 $\sum_{i=1}^n Y_i^2$  である。

## 9.6 最小2乗推定量の分布と性質

$$Y_i = \hat{\alpha} + \hat{\beta}X_i + \hat{u}_i$$

$\hat{\alpha}$ 、 $\hat{\beta}$  は推定量または推定値、 $\hat{u}_i$  は残差

$$Y_i = \alpha + \beta X_i + u_i$$

$\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\sigma^2$  は母数（パラメータ）、 $u_i$  は誤差項

仮定：

- $u_1, u_2, \dots, u_n$  は互いに独立
- $u_i \sim N(0, \sigma^2)$

$\hat{\alpha}$  の分布と  $\hat{\beta}$  の分布は、それぞれ、

$$\hat{\alpha} \sim N\left(\alpha, \sigma^2\left(\frac{1}{n} + \frac{\bar{X}^2}{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}\right)\right)$$
$$\hat{\beta} \sim N\left(\beta, \frac{\sigma^2}{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}\right)$$

であることがわかっている（証明略）。

$\mathbf{E}(\hat{\alpha}) = \alpha$  ,  $\mathbf{E}(\hat{\beta}) = \beta$  であるので、 $\hat{\alpha}$  と  $\hat{\beta}$  は  $\alpha$  と  $\beta$  の不偏推定量である（証明略）。

標準化して，

$$\frac{\hat{\alpha} - \alpha}{\sigma \sqrt{\frac{1}{n} + \frac{\bar{X}^2}{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}}} \sim \mathbf{N}(0, 1)$$

$$\frac{\hat{\beta} - \beta}{\sigma / \sqrt{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}} \sim \mathbf{N}(0, 1)$$

一方， $\sigma^2$  の推定量  $s^2$

$$s^2 = \frac{1}{n-2} \sum_{i=1}^n (Y_i - \hat{\alpha} - \hat{\beta}X_i)^2$$

$\sigma^2$  を推定するためには  $\hat{\alpha}$  ,  $\hat{\beta}$  の 2 つを推定する必要がある。

そのため， $n-1$  でなく， $n-2$  で割る。

以下が分かっている、

$$\frac{(n-2)s^2}{\sigma^2} \sim \chi^2(n-2)$$

$t$  分布が得られる (証明略)。

結果的には、 $\sigma^2$  を  $s^2$  で置き換えると、

$$\frac{\hat{\alpha} - \alpha}{s \sqrt{\frac{1}{n} + \frac{\bar{X}^2}{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}}} \sim t(n-2)$$
$$\frac{\hat{\beta} - \beta}{s / \sqrt{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}} \sim t(n-2)$$

となる。

$$Se(\hat{\alpha}) = s \sqrt{\frac{1}{n} + \frac{\bar{X}^2}{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}}$$

$$Se(\hat{\beta}) = s / \sqrt{\sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2}$$

として、 $Se(\hat{\alpha})$ 、 $Se(\hat{\beta})$  をそれぞれ  $\alpha$  の標準誤差、 $\beta$  の標準誤差と呼ぶ。

よって、

$$\frac{\hat{\alpha} - \alpha}{Se(\hat{\alpha})} \sim t(n-2)$$

$$\frac{\hat{\beta} - \beta}{Se(\hat{\beta})} \sim t(n-2)$$

として、 $\alpha$  や  $\beta$  に関する区間推定、仮説検定を行う。